

自家発は942名、可搬形は724名が合格

平成23年度専門技術者講習・試験

内発協ではこのほど、昨年11月28日に開催した自家発発電設備審査委員会の審査結果に基づき、平成23年度実施の専門技術者講習・試験の合格者を決定した。合格者数の内訳は、自家発発電設備専門技術者（以下、自家発専門技術者）が942名、可搬形発電設備専門技術者（以下、可搬形専門技術者）が724名、合計1,666名となった。

合格者数を昨年度実績と比較すると、自家発専門技術者は若干増加した。一方、可搬形専門技術者は減少したものの、昨年度が一昨年度に比べ大幅に増加したことを考慮すると、全体としてはほぼ昨年度（1,672名）並みの合格者数であった。

合格者の会場別内訳

会場別の合格者数について、自家発専門技術者では東京が全体の約4割を占め圧倒的に多く、大阪、福岡、名古屋の順で、この傾向は例年と同じであった。

一方、可搬形専門技術者も東京が3割を占め最も多く、次いで大阪、名古屋、福岡と続く傾向は、自家発専門技術者と同じであった。

合格者の業種別内訳

業種別の内訳について、自家発専門技術者では「電気工事業」又は「保守・修理業」に従事する者が全体の約6割を占め圧倒的に多く、次に「保守・修理

業又は「製造業」へと続く傾向は例年どおりであった。

一方、可搬形専門技術者も「土木工事業」に従事する者が圧倒的に多く半数を超え、次に「賃貸（リース・レンタル）業」又は「建築設備工事業」へと続く傾向は例年どおりであった。

合格者の年齢別内訳

年齢別の内訳について、自家発専門技術者では30代が圧倒的に多く約4割を占め、40代、50代、20代と続くこの傾向は例年どおりであった。

一方、可搬形専門技術者も30代が最も多く約4割を占め、40代、50代、20代と続く傾向は自家発専門技術者と同じであった。

科目別42名、業務区分追加30名が合格

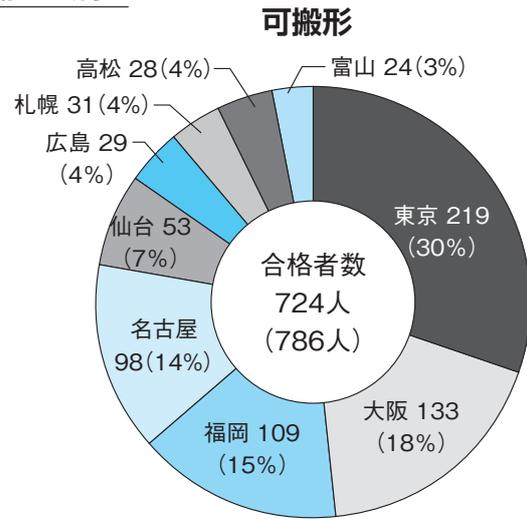
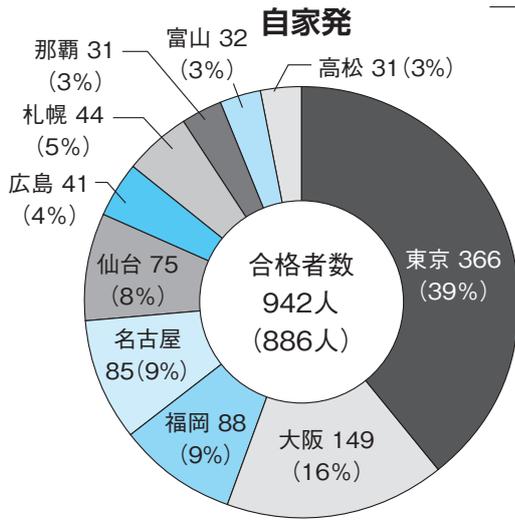
新規受験者の講習・試験と併せて実施された、「科目別受験」では42名、「業務区分追加受験」では30名がそれぞれ合格した。

科目別受験とは、受験科目の一部が合格点に達しなかったために前年度合格できなかった者が、本年度合格点に達しなかった科目を対象に、再度受験する方式である。

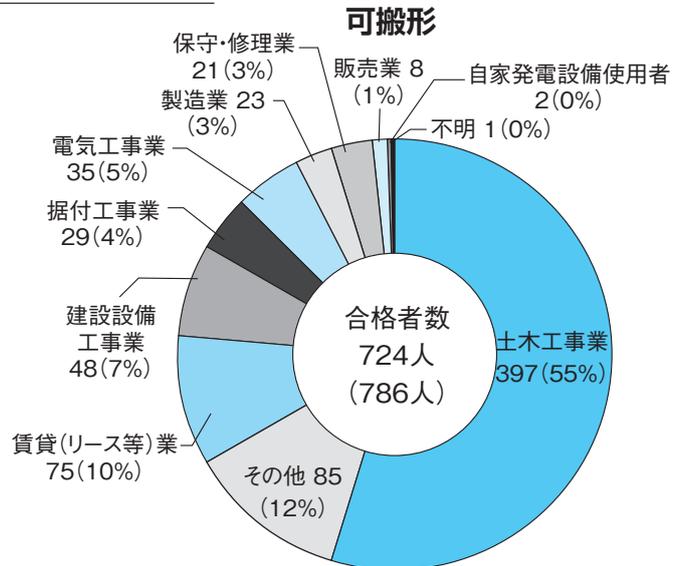
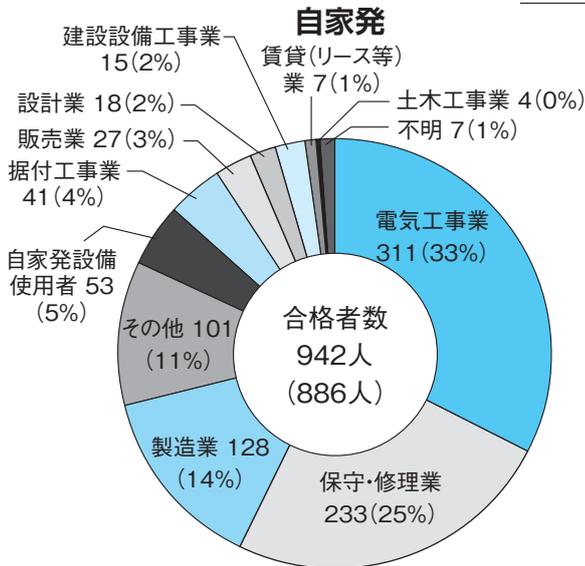
業務区分追加受験とは、既に専門技術者の資格を保有する者が、新たな業務区分を追加する目的で受験する方式である。

会場別、業種別、年齢別に見た合格者数の内訳

1. 会場別



2. 業種別



3. 年齢別

